

令和三年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

税への理解

奈良学園登美ヶ丘中学校 三年 後藤 綾音

「なんで、収入が多い人ほど、たくさん税金を納めないといけないのかな？」

税の作文のテーマを探し、友達と税について話していた時、友達がそう言った。驚いた。私は、多く収入を得ていて、十分な暮らしが出来る人々が、より多くの税金を納め、貧しくて、暮らしが苦しい人々が一人でも多く、豊かな生活を送ることができるようにするのは、当然だと思っていたからだ。

「なんで、そう思ったの？」

と尋ねると、

「だって、高収入の人って、大抵の人は、どこかで努力した人だと思うんだよね。多くの時間働いている人とか、たくさん勉強した人とか。そうやって、一生懸命努力して稼いだお金を、何の努力もしていない人に、何の見返りもなしにプレゼントしないといけないっておかしくない？」
…なるほど。友達の言いたいことは分かった。でも、私は、その考えに賛同することはできなかった。

確かに、高収入の人の大抵が努力の結果だというのは、頷ける。しかし、努力していないから低収入なのだという言い分は納得できない。人には人の事情があり、皆、スタートラインも違う。だから、低収入＝努力していないという考えは、間違っていると思った。

そして、もう一つ、納得いかなかったことがある。税金を納めることに対して、何の見返りもなしに、プレゼントするという表現を使ったことだった。税という制度の、そもそもの理念は、全ての人々が支え合い、公平かつ平等に社会を生きていくことである。それに、私は色々な立場の人同士が支え合っているからこそ、お金を稼ぐことのできない＆消費税しか納めていない私が、ここまで成長できたのだと思っているし、それは私だけではなく、その友達も、全国の中学生も同じだと思う。だからこそ、恵まれている立場にある者は税について正しく学び、自分の利益・幸福だけを追い求めるのではなく、社会に貢献できる人になるべきだと思っている。私も、税金をきちんとたくさん納め、社会により貢献できる人間でありたいと思う。